

# 全国各地での「VSOP運動」が「ボランティア経済」活性化の鍵

# 田坂広志の風を語る

全国で「VSOP運動」を

加藤 前回、田坂先生は、真に「地方創生」を実現するためには、ただ、地方に予算をばら撒くのではなく、全国各地で「ボランティア経済」を活性化させ、知識、関係、信頼、評判、文化などの「目に見えない資本」を生み出していくことが不可欠だと言われましたね。では、そのためには、具体的に、何から始めれば良いのでしょうか？

田坂 それは、前回の最後に、「三つの戦略」を提案しましたが、今回、一つ具体的に提案したいのは、全国各地で「VSOP運動」を展開することです。

田坂 そうですね。前回の最後に、「三つの戦略」を提案しましたが、今回、一つ具体的に提案したいのは、全国各地で「VSOP運動」を展開することです。

田坂 そうですね。前回の最後に、「三つの戦略」を提案しましたが、今回、一つ具体的に提案したいのは、全国各地で「VSOP運動」を展開することです。

### 田坂広志

Hiroshi Tasaka  
1951年生。74年東京大学卒業。81年同大学院修了。工学博士。87年米国パテル記念研究所客員研究員。90年日本総合研究所設立参画。取締役等歴任。00年多摩大学大学院教授就任。同年シンクタンク・ソフィアバンク設立。代表就任。03年社会起業家フォーラム設立。代表就任。08年世界経済フォーラム(ダボス会議)のGlobal Agenda Councilメンバー就任。10年世界賢人会議Club of Budapest日本代表就任。11年東日本大震災に伴い内閣官房参与就任。13年全国から2000名の経営者やリーダーが集まり「変革の知性」を学ぶ場、「田坂塾」を開塾。著書は80冊余。  
tasaka@hiroshitasaka.jp

「地方創生」の鍵は、予算のばら撒きではない。地域において「ボランティア経済」を活性化し、知識、関係、信頼、評判、文化などの「目に見えない資本」を生み出していくこと。それこそが鍵である。では、そのために、どのような地域プロジェクトを生み出すべきか？

### 異業種の協働が生み出す地域の「目に見えない資本」

田坂 こうした運動が広がると、自然に、その地域での「ボランティア経済」が活性化していくからです。そして、この経済が活性化すると、その地域に「目に見えない資本」が生まれ、広がっていきます。

加藤 この運動は、ボランティア・サービスの提供です。ボランティア経済が活性化するのは、一つの商店や会社ではなく、異業種の商店や会社が協力して提供することです。この異業種協働を行うと、それぞれの商店や会社が持っている「目に見えない資本」が、自然に増えていきます。

田坂 そうですね。異業種が協力して提供すると、互いの知識や智恵を持ち寄り、交換するので、互いの「知識資本」が増えていきます。また、協力・協働して住民への告知や広報を行うと、互いの顧客ネットワークが結びつくので、互

い「関係資本」が増えていきます。さらに、複数の商店や会社が集まってサービスを提供すると、住民からの信頼が高まるので、参加した商店や会社の「信頼資本」が増えます。そして、ユニークなボランティア・サービスを提供すると、地元メディアなどが紹介してくれるので、参加商店・会社のブランドイメージが高まり「評判資本」が増えます。また、こうしたVSOP運動が地域に広がることで、地域での「助け合い文化」など、「文化資本」が増えていきます。

「マネタリー経済」も動き出し、まさに「本業」にもプラスになります。先ほどの例で言えば、書店や放送局、豆腐屋さんやレストラン、観光バス会社や老人ホームにとっては、それぞれのブランドイメージと社会的信頼を高め、顧客ネットワークが広がり、様々な顧客情報や顧客ニーズが得られ、新たなビジネスアイデアが生まれてくるのです。

### インタビュー 加藤晶子

Akiko Kato  
(株)リクルート・キャリアを経て、キャリア・カウンセラーとして独立。20~30代の学生や社会人に1000人規模でのキャリア・カウンセリングを行う中で、働くことやキャリアについて人生の早期に考えることの重要性を痛感し、小学生向けのキャリア教育スクール、キッズイノベーション(Kids Innovation)を立ち上げる。最近では、この教育事業の代表を務める傍ら、子ども達の未来を見据え、社会や時代がどこに向かっていくのか、様々な識者のインタビューを行っている。





## 異業種協働の社会貢献プロジェクトは、 「目に見えない資本」を生み出していく

加してプロジェクトのアイデアを出し合うことをすると、従業員の方々も元気になり、会社の職場文化も良くなっていくでしょう。

ただ、当然のことながら、このV SOP運動は、最初から高いコストをかけて挑戦するのではなく、まずは、「身の丈」でできることから始めるので良いと思います。

**加藤** こうした運動に、その地域のNPOや社会起業家の方々は、どう関われば良いのでしょうか？

**田坂** 例えば、子供たちの教育問題に取り組みNPOであれば、先ほどの「絵本の読み聞かせ」プロジェクトを書店や放送局に積極的に提案し、一緒になって、そのプロジェクトを進めることです。また、老人介護の問題に取り組みむ社会起業家であれば、「スポーツ観戦ツアー」を観光バス会社と老人ホームに提案して、このプロジェクトを実現する。そういった「触媒的」な役割と動きをされると良いですね。

**加藤** では、自治体は、このV SOP運動に、どう関われば良いのでしょうか？

著名な有識者が審査する  
「地域V SOP大賞」

**田坂** 自治体ができる支援は、

色々ありますが、一つ、ぜひやって頂きたいのは、「地域V SOP大賞」などの表彰制度ですね。

その地域で、最もユニークで、住民から喜ばれ、その地域の「ボランティア経済」を活性化させたプロジェクトを表彰するということです。その制度があると、地域の商店や会社も、さらに意欲的にこのV SOP運動に参加されるでしょう。また、商店街などでも皆で集まって、智恵を出し合うなどの動きも起こるでしょう。

**加藤** その審査は、誰がやるのでしょうか？

**田坂** できれば、その地域に縁のある著名な有識者の方々が審査されると、メディアも注目するので、受賞したプロジェクトと、その地域の「評判資本」が高まりますね。

そして、自治体は、地元メディアと協力して、地元のユニークなV SOPを全国で紹介するべきでしょう。そうすると、例えば、全国の書店で「読み聞かせプロジェクト」が広がっていくかもしれません。

そうした「全国に広げていく」という意味では、全国の各地域が、それぞれの優れたV SOPを学び合って、経験やノウハウの交流を行う場やウェブサイトなども生まれてくると良いですね。

**加藤** では、「地方創生」のために、この運動を全国に広げていくという観点から、この「V SOP運動」を支援して欲しい組織や団体は？

### 中小・零細企業の 新たなCSRのスタイル

**田坂** 例えば、全国組織である、

商工会議所や青年会議所などが、こうしたV SOP運動を進めていくと良いですね。これらの組織には、全国の中小企業や零細企業が集まっていますが、これまで、「企業の社会的責任」(CSR)や「企業の社会貢献」ということが語られても、財政的な余力の無い中小・零細企業は、本業以外の活動やお金の寄付を通じて、社会に貢献することは難しい状況でした。しかし、このV SOP運動ならば、「身の丈」に合わせて社会貢献ができ、また、異業種との交流の中で、新たなビジネスチャンスが生まれ、「本業」にもプラスの効果が生まれるので、取り組みやすいでしょう。

また、この「本業を通じての社会貢献」は、昔から「日本型経営」の基本精神ですので、こうしたV SOP運動を機に、日本型経営の原点への回帰も起こっていく

くでしょう。

**加藤** それは、以前、この対話で、田坂先生が語られていた、「日本型資本主義と日本型経営は、ボランティア経済と目に見えない資本を十全に活用してきた資本主義であり、経営である」という話に結びついていきますね。このV SOP運動の先には、そんなビジョンも見えてくるのですね。

### RECOMMENDED BOOK

田坂氏は、今回の対話でも論じた「目に見えない資本」について、自著で詳細に語っているので、興味ある方はこちらも是非参照いただきたい。

『目に見えない資本主義』  
(東洋経済新報社刊)

資本主義の進化に伴って、「日本型経営」と「日本型資本主義」が新たな価値を伴って復活してくる——「資本主義の進化」のビジョンを従来の経済学の視野を超えた深い洞察力で語った、知的刺激に満ちた一冊。

Invisible  
Capitalism  
目に見えない資本主義

田坂広志

経済学者が語らない  
資本主義の未来

なぜ、日本型経営が復活するの？